

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

15135

交通安全施設整備事業

[長期総合計画]

分野別目標	4	誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
政策	2	都市機能や市民生活を支える道路網の整備
施策	2	生活道路の整備
取組方針	3	安全で快適な道路環境の整備及び通学路の安全確保

事業区分(1)	事業経費		管理経費	○
	その他			
事業区分(2)	自治事務		法定受託事務	
	その他	○		
会計・ 予算区分	会計			
	款			
	項			
	目			
	大事業 中事業			

事業種別	継続			関連個別計画		
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	道路管理課	坂上 雅洋 435-1088
事業実施の根拠法令				関連課		

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	交通安全施設の新設、補修を実施し、交通事故を防止することで市民が安心して利用できる道路環境を整備する。		道路の危険箇所を無くすため、交通安全施設（防護柵、ガードレール、道路反射鏡等）の新設及び補修並びに歩道の整備を行う。			
事業内容	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	
	道路の危険箇所を無くすため、交通安全施設（防護柵、ガードレール、道路反射鏡等）の新設及び補修並びに歩道の整備を行う。	道路の危険箇所を無くすため、交通安全施設（防護柵、ガードレール、道路反射鏡等）の新設及び補修並びに歩道の整備を行う。	道路の危険箇所を無くすため、交通安全施設（防護柵、ガードレール、道路反射鏡等）の新設及び補修並びに歩道の整備を行う。	道路の危険箇所を無くすため、交通安全施設（防護柵、ガードレール、道路反射鏡等）の新設及び補修並びに歩道の整備を行う。	道路の危険箇所を無くすため、交通安全施設（防護柵、ガードレール、道路反射鏡等）の新設及び補修並びに歩道の整備を行う。	

2 事業コスト

事業費等(千円)	令和03年度		令和04年度		令和05年度		令和06年度		令和07年度		
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	
事業費	81,758	137,443	85,758	158,793	86,758	76,334	69,758	0	69,758	0	
伸び率(%)	△3.5%	45.1%	4.9%	15.5%	1.2%	△51.9%	△19.6%	△100%	0%	0%	
人件費	正規職員	38,165	34,597	32,308	30,284	29,464	32,450	34,021	0	32,450	
	正規職員以外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	小計	38,165	34,597	32,308	30,284	29,464	32,450	34,021	0	32,450	
国庫支出金	500	33,205	0	31,421	5,000	2,214	500	0	500	0	
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
市債	400	32,600	0	30,400	4,500	4,500	400	0	400	0	
その他	44,000	49,288	49,000	52,885	40,000	0	40,000	0	40,000	0	
一般財源(税等)	36,858	22,350	36,758	44,087	37,258	69,620	28,858	0	28,858	0	
所要人数(人)	正規職員	4.92	4.46	4.15	3.89	3.75	4.13	4.33	0.00	4.13	0.00
	正規職員以外	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
主な予算内訳	道路反射鏡設置工事、道路反射鏡補修、区画線設置、交通安全施設設置、交通安全施設整備工事、所々修繕、交差点マーク設置										

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
			目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
交通安全施設所々修繕件数		件	目標値			50	
			実績値	55	55	70	
			達成度(%)	%	%	%	%
交通安全施設に係る要望件数		件	目標値		50	50	
			実績値		69		
			達成度(%)	%	%	72.4%	%
※要望件数が少なければ事業の成果が表れていると判断 (例) 目標値30件、実績値50件の場合、達成率は30/50=60%		件	目標値				
			実績値				
			達成度(%)				

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>市道が年々増加するため、整備する交通安全施設も増え、ニーズとしては増加傾向にある。</p> <p>事業手段について、修繕に関しては受動的な事業実施になるため改善の余地はないが、新設するものは県警等と連携し、事故多発箇所に対して優先的に設備を新設することも可能なことから、一部見直しが必要としている。伴って、県警等と協働が可能であると考え。</p> <p>事故防止という観点から緊急性が低いとは言えず、中長期的に取り組みたい。</p> <p>上記のように効果的な新設が行われれば、さらなる事業成果が期待できると考える。</p> <p>交通安全施設の整備は上位施策である生活道路の整備の一環であるため、一定の貢献度があると考え。</p> <p>施設の整備について費用的な工夫はできず、負担についても他者に求められるものではない。</p>
見直し・改善内容	<p>新設については計画的かつ効果的に行われるべきであると考え、県警の事故発生データ等を活用する等の改善が考えられる。</p> <p>また、目標及び実績について区画線の設置箇所数や工事箇所数が成果となっていたが、これらは活動指標であるため修正し、成果としては交通安全施設の要望数を設定した。これは、活動指標に設定している事業が効果的に実施されていけば、市道の安全性が向上し、伴って市民からの設置要望が少なくなると考えるためである。</p>